7 地域が輝くまちの創生 ［地域活性化］

（１）人が集い、元気が生まれ広がる、新たなまちへ　～佐伯地域～



■ 現状と課題

佐伯地域は、「街」「里」「浦」という３つの特徴を併せ持つ地域として、地域活性化のための市民活動への支援を行なってきました。「街」エリアでは、さいき城山桜ホールの完成を機に、市街地のにぎわいを取り戻しつつあります。「里」エリアでは、地域の産品を活用した商品の開発や空き家を利用したオーガニックレストランがオープンするなど新たな拠点づくりを支援し、「浦」エリアにおいても、地域の特色をいかし、自然を活用した取組として大入島オルレコース*が整備されるなど、それぞれの地域における取組、その活動を支援してきました。引き続き、地域の特性をいかし魅力を高めていくことが必要です。

こうした中、人口減少は進み、空き家、空き店舗が増加し地域の環境等への影響が懸念され、その利用等が課題となっています。あわせて、地域の高齢化により地域行事の開催や伝統文化の継承が難しい状況になっています。また、ライフスタイルや価値観の多様化に伴う地域コミュニティの希薄化が顕著になっています。このように地域の状況が変化する中で、地域を支える人づくりと誰もが安全で安心して暮らすための新たな地域コミュニティ組織づくりが必要となっています。

■ これからの基本方針

ア　さいき城山桜ホール、城山周辺を中心に、人が集う街、人々が交流しあう街づくりを進めることで、街の魅力を更に高めます。同様に、葛港周辺においてもイベントの開催による交流人口の増、景観整備を進めることで観光客の増加を図ります。また、仲町やうまいもん通りのにぎわいを創出する取組を支援します。

イ　豊かな自然、農林水産資源などをいかし、景観整備に取り組むことで、地域の魅力を高めます。

ウ　佐伯地域の歴史・文化を活用し情報発信することで地域の魅力を高めるとともに、その保存・継承を支援します。また、恵まれた自然環境や、静かで住みやすいことから、市外からの移住者も増えつつあり、空き家や空き店舗等の利用促進を図ります。

エ　多くの世代が参加でき、子どもに対する地域教育を始め世代間交流を図ります。また、子育て環境の充実や防災面を意識するなど、バランスのとれた新たな地域コミュニティ組織づくりに取り組みます。

■ 主な取組

ア　新たなまちの姿を描く「街」エリアの形成

（ア）人が集う、さいき城山桜ホール周辺を中心とした各種イベントに対する支援や、市民団体との協働

（イ）人の流れをつくる城山の利活用と城下町観光交流館等との連携

（ウ）自転車や徒歩などそれぞれのスタイルに合わせた観光周遊ルートの活用

（エ）葛港周辺を中心とした人が集うイベントに対する支援や市民団体との協働及び景観整備

（オ）仲町、うまいもん通りのにぎわいを創出する取組への支援

イ　地域資源をいかし次世代につなげる「里・浦」エリアの形成

（ア）「里」の自然、元越山、彦岳等を活用した地域づくりの推進

（イ）「浦」の自然、大入島等をいかしたアウトドアの推進と景観整備

（ウ）地域の産品を活用した地域づくりの推進及び拠点づくり

ウ　「街」「里」「浦」エリアにおける歴史・文化の活用と空き家、空き店舗等の利用促進

（ア）地域の歴史・文化を活用した情報発信とその保存、継承に対する支援

（イ）新たな空き家、空き店舗の情報共有と掘起こし及び既存施設の再利用するための活動

エ　人が集い、安全で安心して暮らせるための新たな地域コミュニティ組織づくり

（ア）子育て環境の充実と防災面を意識した地域づくり

（イ）公民館・コミュニティセンター*を活用した地域活動に対する支援

（ウ）地域内での交流イベントの推進と次世代の地域リーダーの育成

（エ）子どもに対する地域教育、世代間交流の推進

（オ）団体同士が連携した地域づくりの推進

■ 重点プロジェクト

げんき、ひろがる！佐伯プロジェクト

佐伯地域は、さいき城山桜ホール等を中心に人が集う、人々が交流しあう拠点として、「街」エリアの魅力を高め、その効果を「里」「浦」周辺エリアへと波及させることが重要です。そのためには「人」が何より大切であり、人が集い協力、協働し力を高めていくことにより地域の資源をいかした取組や拠点を整備することで、地域の資源を磨き、魅力ある地域づくりが可能となります。また、これらを推進する役割を担うための新たな地域コミュニティ組織づくりを支援し、元気で特色ある地域を維持するための取組を支援します。

このような取組を通して、子ども達が地域を愛する心を育み、住みたい、またいつか帰りたいと思えるようなまちを目指します。

■ 目標指標

目標内容	基準値（令和４年度）	目標値（令和９年度）
新たな空き家等の掘起こし件数	6件/年	8件/年
空き家等の利活用件数	25件/年	28件/年
「街・里・浦」エリアの地域活性化につながる取組及び支援件数	11件/年	15件/年



さいき城山桜ホール子育ち・子育て支援室「さくらっ子」



空き家を改装したコミュニティカフェ

（2）マグロ養殖と花の咲くまち　かみうら　～上浦地域～

■ 現状と課題

上浦地域は、リアス海岸の景観が美しい、海洋を中心とした自然環境に恵まれた東西に細長い海のまちです。新しく遊歩道が整備された豊後二見ヶ浦や瀬会公園、暁嵐の滝といった数々の名所など、海と山の豊かな自然に恵まれています。特に、豊後二見ヶ浦の注連縄張替えや初日の出は市内外から多くの人が訪れます。また、注連縄のワラが縁で竹田市荻町の人々との交流も続いています。今後は豊かな自然の保全に努めるとともに、特産品や観光資源の開発を進め、交流人口を伸ばし、まちの活性化を図ることが重要です。最近はマグロ養殖が水揚げ日本一になりつつあり、特産品としての活用が期待されます。

しかし、本地域も少子高齢化が進行し、人口は今後も減少傾向が続くものと予測されます。特に子育て世代の流出は深刻で、児童生徒数が激減しています。高齢化や人口減少に伴い、イベントや地域行事の開催、道路・水路の草刈り等の地域活動が困難になりつつあります。また、商店が減少し、食料品・日用品の購入が困難となり移動販売車が頼りの高齢者等が増えています。

住民一人一人の助け合いの精神や海・山などの恵まれた自然環境を有効活用しながら、道路・公園などの環境美化を図り、美しく清潔な町並みを創出し、魅力ある、誰もが安心して暮らせる地域づくりを行う必要があります。

■ これからの基本方針

ア　豊後二見ヶ浦や瀬会海岸などの恵まれた自然環境資源を有効活用するとともに、花木の植栽を進めます。きれいな花の咲く地域をつくることにより、地域住民に憩いと誇りを持ってもらい、地域を訪れる人々から愛されるまちとなることを目指します。また、特産品開発にも努め観光振興を図ります。

イ　道路・公園などの環境美化を図ることによって、美しく清潔な町並みを創出していくことを目指します。また、身近な生活環境の基盤整備を図ることによって、誰もが快適に安心して暮らしていける生活空間が形成される地域を目指します。

■ 主な取組

ア　花の咲く地域づくりと観光振興
- （ア）河津桜、ジャカランダ等花木の育成
- （イ）瀬会公園の桜の再生
- （ウ）上浦へのお花見ルートの確立
- （エ）観光ポイントの整備
- （オ）マグロを活用した地域振興

イ　美しい町並みと快適・安心空間の形成
- （ア）地域の草刈り等への支援
- （イ）県道改良と越波対策
- （ウ）地域の医療体制の充実
- （エ）高齢者の移動手段の確保と支援
- （オ）移動販売の活用と買い物支援
- （カ）子どもたちの各種体験支援
- （キ）新たなコミュニティ組織づくりの推進

■ 重点プロジェクト

①花の咲く上浦づくり

四浦半島の河津桜（開花：２月）は津久見市側の活動により有名になり、多くの観光客が訪れています。上浦側の河津桜の観光スポットとして、にいなめフラワーパーク（旧最勝海浦小中学校グラウンド）をメインに植樹することにより、四浦半島全体を河津桜の名所とし、観光客の流れを作ります。また、世界３大花木のひとつであり、青い桜とも呼ばれるジャカランダ（開花：５～６月）や瀬会公園の桜等、既設の花木の活性化を図り、地域住民の憩いの場、交流人口の増加・地域の活性化の手段とします。

②生本マグロの活用

上浦には本マグロの養殖を行っている会社があり、主に関東方面に出荷しています。また、新たに出荷を始める会社もあり、上浦産本マグロの水揚げは日本のトップクラスになりつつあります。しかし、このことは広く認知されてはいません。上浦産生本マグロの存在と美味しさをアピールしながら知名度を上げるとともに、マグロ料理を提供する拠点づくりを進め、交流人口の増加・地域の活性化を目指します。

■ 目標指標

目標内容	基準値（令和３年度）	目標値（令和９年度）
観光等客数	63,143人/年	73,000人/年



豊後二見ヶ浦



にいなめフラワーパークでの植樹

（3）人もまちも美しい快適居住空間のまち、弥生　～弥生地域～



■ 現状と課題

弥生地域は、美しい河川と自然に囲まれ、市街地や商業施設、佐伯ICに近いことから、住宅やアパート、福祉施設の建築が進み、市町村合併後も人口は緩やかな減少にとどまっています。人口の流入により地縁的なつながりが希薄となりつつあり、地域コミュニティに関する考え方も多様化してきました。住んでみたい・住み続けたいと思うまちづくりを行っていくためには、活力ある地域づくりと、広域的な組織づくりによる対応力の向上や、地域リーダーの育成に取り組み、コミュニティを強化していくことが必要です。

また、市街地と山間部を結ぶ交通の要所となっていますが、大雨のたびに主要道路が冠水して交通が遮断されるほか、河川の増水による地区内の浸水被害が深刻な問題となっています。安全・安心なまちづくりを行っていくためには、浸水や冠水被害が懸念される箇所と河川の整備を行い、しっかりとした内水対策に取り組むことが必要です。

■ これからの基本方針

ア　弥生地域の中心である「道の駅やよい」を活用して地域特産品や観光・文化の情報をSNS*等により発信し、市内外から交流人口の拡大を目指します。

イ　地域住民や自治会、地域団体の交流拠点を整備し、相互の連携を強化することで自助・互助・共助が成り立つ連帯感のある地域を目指します。

ウ　災害に強い安全なまちづくりを目指して、自然環境に配慮した災害対策事業を推進します。また、自治会や消防団など地域力強化と体制の充実を図り、住民へ防災意識向上に向けた啓発を行います。

■ 主な取組

ア　「道の駅やよい」を中心とした地域産業の活性化と周辺観光整備
- （ア）観光資源の見直しとSNS*等の情報発信による観光振興促進
- （イ）「やよいふるさとパーク」の整備活用
- （ウ）地域ブランドの開発や掘り起こし支援

イ　住んでみたい・住み続けたいと思う美しいまちづくり
- （ア）世代や分野ごとの人材及びリーダー育成に向けた取組
- （イ）新たなコミュニティ組織づくりの取組及び住民の交流の場となる複合拠点の整備
- （ウ）コミュニティが連携した地域美化活動推進

ウ　安全・安心に暮らすための災害に強いまちづくり
- （ア）浸水や冠水が予想される場所の整備と関係機関への要望
- （イ）地域住民の防災意識・防災力高揚に向けた取組支援

■ 重点プロジェクト

弥生にぎわいプロジェクト

弥生地域の中心に位置する「道の駅やよい」は、県南の交通の要衝として年間約30万人が訪れます。周辺には番匠川や栂牟礼城址など豊かな自然に恵まれた「やよいふるさとパーク」が整備されており、このエリアを活用したフットパス*コースなどの充実を図り、紅葉樹など四季折々の彩りを楽しむ植栽やサイクリング、SUP*など自然と親しむ体験事業を行うことで美しいまち、活力あるまちづくりを推進します。また、地域資源を活用した特産品の開発を行い「観光・体験・食」といった一連の取組

により、交流人口の増加とにぎわいの創出を行います。

■ 目標指標

目標内容	基準値（令和３年度）	目標値（令和９年度）
「道の駅やよい」の来場者数	303,427人/年	350,000人/年



番匠川での SUP*体験



道の駅やよいと井崎川

（4）よし　最高の水あそびを　用意しよう！　～本匠地域～



■ 現状と課題

佐伯市の水源である清流番匠川は、この本匠地域の誇れるところであり未来の佐伯市民のためにもこの自然環境を守る必要は大いにあります。

しかしながら、自然災害から人々の生命財産を守るためにも自然との共生を保ちながら整備を行う必要があります。

産業構造の変化により、主たる産業である農林業の衰退に伴い、生産年齢人口の流出が続き、人口減少と高齢化が進んでいます。生活の利便性については、公共交通体系の整備などにより維持されましたが、人口減少と高齢化により自治活動や集落での生活を維持することが困難になりつつある地区もあり、生活の質の向上に取り組む必要があります。

■ これからの基本方針

ア　清流番匠川を始めとする自然環境とそこに住む人々が自然と共生できるように環境を整備し、災害に強い地域にします。

イ　自然環境や地域文化を活用し、観光産業や地場産業等が活発な地域にするとともに、多様で柔軟な働き方が可能な地域づくりに取り組みます。

ウ　主要道路の整備を行い、生活利便性の高い生活ができる地域にするとともに、高齢化の進む地域を多様な主体による見守り等により支援することで、住み慣れた地域で安心し、生きがいを持って暮らせる地域とします。

■ 主な取組

ア　人と自然が共生した環境の整備
- （ア）清流番匠川を維持するための自然環境に配慮した整備
- （イ）防災減災に配慮した災害に強い環境整備

イ　地域の特性をいかした特色ある地域産業の推進
- （ア）ホタルなどの自然環境を活用した観光産業、地場産業の推進
- （イ）スポーツツーリズム（サイクリング、クライミング、カヌーなど）や地場産業（しいたけ、お茶など）の体験観光の推進

ウ　道路整備や住み慣れた地域で安心し、生きがいを持って暮らせる地域づくり
- （ア）県道三重弥生線の整備の実施
- （イ）安心して暮らせる地域づくりにつながる小規模集落の見守り等
- （ウ）持続可能な地域文化をいかした地域づくり

■ 重点プロジェクト

自然と遊ぶ本匠プロジェクト

清流番匠川などの豊かな自然（水遊び・ホタル観賞など）や地場産業（しいたけ・お茶など）をいかした観光ルートを構築するとともに、サイクリングやクライミング、カヌーなどのスポーツツーリズムやアウトドア活動を推進し、交流人口の増加を目指します。

これらの計画により観光客の増加と地域の人々との交流を進め、地域の活性化を図るとともに、地場産業の活発化につなげていきます。

■ 目標指標

目標内容	基準値（令和３年度）	目標値（令和９年度）
観光等客数	21,000人/年	30,000人/年



小半森林公園の水車と番匠川



小半森林公園の風景

（５）ユネスコエコパーク*を活用した持続可能な地域づくり　～宇目地域～



■ 現状と課題

宇目地域では、祖母･傾国定公園を代表とする豊かな自然に恵まれ、歴史ある祭りと多くの郷土芸能を有しています。その中で暮らす住民は、様々な形で自然と文化に触れあうことで、活力や豊かな心が育てられています。

また、地域内にある道路は大半が循環しており、迂回路としてもアクセスが可能なことから、比較的災害にも強い地域でもあります。

産業では寒暖の差が大きいことから、おいしい米の生産や栗、お茶、宇目ぶどうなどの多くの作物づくりに適した気候といえます。また乾椎茸や花きにおいては全国でも非常に高い評価を得ています。

しかし、高齢化及び価格の低迷から、米を代表とする1次産業を支える農林業者が少なくなったことに加え、人口の減少が進み数年後には地区として成り立たなくなる所が出てくることが懸念されていることから、さいき農林公社、佐伯広域森林組合を軸とした1次産業の維持及び地域の魅力を次世代に継承することにより、持続可能な地域づくりを進めていくことが喫緊の課題となっています。

また、平成29年６月に宇目地域の全域がユネスコエコパーク*に登録され、約５年間、ユネスコエコパーク*を活用した地域づくりを行ってきました。

今後も「自然と人との共生」を軸に自然体系を維持するとともに、ユネスコエコパーク*のブランド力をいかした観光振興や、地域の特産品を使ったブランド商品の開発を進めていき、さいきオーガニックシティの「人と自然が共生する持続可能なまち」を目指していきます。

■ これからの基本方針

ア　次世代を担う地元の小学校、中学校の生徒への自然観察、自然体験を通じた地域の魅力を伝えることや、八匹原・椿原祭典、木浦すみつけ祭りなど歴史のある祭りや神楽、宇目の唄げんかといった郷土芸能を継承していくことにより、後継者を育成し、人口の減少を少しでも食い止め、持続可能で住みよい環境の地域づくりを目指します。

イ　宇目地域ならではの寒暖の差を利用し育てられた米や栗などの作物や、大自然の恵みを生かした地域産品を地元の宇目農林産物直売所やイベントなどで販売するとともに SNS* 等を活用した販売促進を図ります。

ウ　「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク*」の宇目地域として引き続き、自然環境に配慮した観光を推進します。また、道の駅宇目を中心とした周辺施設を情報発信基地と位置付け、観光客の集客を図り、カーボンニュートラルな地域の実現を目指します。

■ 主な取組

ア　自然と文化の継承による魅力ある地域づくり

（ア）地域に古くから伝わる祭りや郷土芸能の継承による地域の活性化

（イ）地域の魅力を子どもたちへ伝える次世代育成事業の実施

（ウ）災害に備え安心して暮らせる地域基盤の維持管理の実施

（エ）ＮＰＯ法人宇目まちづくり協議会ほか、各種団体が行う地域活動及び美化活動への支援

イ　地域の自然をいかした農林産物の販売促進

（ア）良質な作物の特徴をインターネットやパンフレットなどによって情報発信

（イ）他の作物との区分を行う専用シールなどでのアピール

（ウ）椎茸や花きといった非常に高い生産技術を後継者へ継承する取組への支援

（エ）生活改善グループなどによる地元の作物を使用した商品の開発や販売といった取組に

対する支援

（オ）昔ながらの製法による郷土の食文化の継承

ウ　ユネスコエコパーク*をいかしたまちづくり

（ア）佐伯地域ユネスコエコパーク*推進協議会と連携した活性化活動の促進

（イ）傾山及び藤河内渓谷周辺を訪れた観光客が安全に利用できる施設の整備

（ウ）佐伯市観光協会宇目支部との連携による地域の魅力発信、観光資源の発掘

（エ）祭りや郷土芸能を参加型にすることにより、都会との交流人口増加の促進

（オ）道の駅宇目を中心とした観光客の受け入れ体制の整備

（カ）宇目の自然環境を活用したサイクルツーリズムを始めとしたアウトドアアクティビティの推進

（キ）宇目地域コミュニティセンター*等を中心とした新たな地域コミュニティの構築

■ 重点プロジェクト

①次世代教育の実施

将来の人口減少に少しでも歯止めをかけるため、次に時代を担う小学校、中学校の生徒を対象に地域の伝統、魅力を伝える次世代育成事業の実施

②観光地の整備

重要な観光地である藤河内渓谷周辺及び傾山登山道の整備、あわせて道の駅宇目を中心とした観光の拠点づくり

③ユネスコエコパーク*としての宇目地域の魅力の情報発信

宇目エコパークセンター（情報発信拠点施設）を県内外からの観光客に向けた情報発信や次世代育成の学習拠点として活用する。

■ 目標指標

目標内容	基準値（令和３年度）	目標値（令和９年度）
観光の要となる道の駅宇目の集客数	63,637人/年	100,000人/年



宇目エコパークセンターでの学習風景


重岡岩戸神楽保存会

（6）人と地域がささえあい 安心と活力に満ちた里 直川　～直川地域～

■ 現状と課題

直川地域は、若年層を中心とした人口の流出と少子高齢化により、令和４年３月末の人口は1,875人、その内65歳以上の高齢者は1,036人で、高齢化率は55.3%となっています。人口減少や高齢化、ライフスタイルや価値観の変化に伴い、地域コミュニティの存続が難しい状況となっています。近所の住民が手伝ってくれていた庭の手入れや電球交換等の困り事から買い物や通院の送迎などの地域課題が増加傾向にあります。

生活交通体系については、利用者数の減少から路線バス運行事業者の収益が悪化し、民間路線としての維持が困難な状況となったため、令和３年10月にコミュニティバス*の路線網が再編成されました。コミュニティバス*の運行の方式を定時定路線型とデマンド型とし、運行区間の変更や運賃の見直しを行い利便性が向上しました。しかしながら、利用者数が増加していないのが課題となっています。

また、近年の大規模災害や局地的災害への対策が急務となっています。消防団員の減少や高齢化が進んでおり、防災体制の整備や地域防災組織の育成が課題となっています。

農業では、農業者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の問題など地域における人と農地の問題を解決していくことが重要となっています。現在、農業用水路や農道の草刈りなど農地の保全活動が困難な状況となりつつあります。さらに、有害鳥獣による農産物の被害も年々増加しています。

観光では、地域活性化のために整備された多くの施設を、民間団体等による指定管理者が運営しています。オープンから25年以上を経過し、老朽化が進んでおり入込客が年々減少しています。



直川地域協力隊*による活動

■ これからの基本方針

ア　地域で暮らす人々を中心に、地域の暮らしを守り、地域課題を解決できるように、新たな地域コミュニティ組織の構築に取り組むとともに、直川地域協力隊*及びボランティア団体等の活動を支援します。また、社会福祉協議会及びボランティア団体等と連携し、住民主体の生活支援サービスが提供できるように支援します。さらに、地域の人口増加による活性化を図るため、移住・定住の施策を推進します。

イ　防災対策のため、消防団員の確保と育成に努めるとともに、直川消防団応援隊、直川地域防災連絡協議会等の地域防災組織の支援を行います。

ウ　農業後継者の育成及び農地を守るため、認定農業者及び若手農業者の育成、集落営農組織の育成・法人化や地域住民の共同活動などにより、農地の多面的機能を維持するとともに、有機農業に取り組みます。

エ　「まるごと直川米」に認定できる優れた食味など訴求力のある主食用米づくりを進め、醸造業などの食品産業のニーズに対応した高品質な麦・大豆の生産拡大に取り組みます。

オ　佐伯市内の周遊観光のため老朽化した観光施設の整備や各種のイベントを行い、入込客や交流人口の増加を図り、観光産業を推進します。また、猪や鹿肉を使ったジビエ*料理や特色ある農産品・加工品などを開発し、地域活性化を図ります。

■ 主な取組

ア　地域で安心して暮らすためのコミュニティづくり
　（ア）新たな地域コミュニティ組織の設立・運営とコミュニティバス*の利用促進
　（イ）直川地域協力隊*及びボランティア団体の支援並びに社会福祉協議会との連携
　（ウ）空き家バンク*の登録促進及び移住定住ツアーの開催
イ　安全に暮らすための防災対策の推進
　（ア）消防団員及び防災士の確保と育成並びに防災の啓発活動
　（イ）直川消防団応援隊及び直川地域防災連絡協議会の支援
　（ウ）指定避難所の整備
ウ　持続可能な農村づくり
　（ア）認定農業者及び若手農業者の育成
　（イ）集落営農組織の育成・法人化及びライスセンターの支援
　（ウ）農地の多面的機能の維持や有機農業の推進
エ　直川産品のブランド化の推進
　（ア）食味評価の高い「まるごと直川米」の生産や高品質な麦・大豆の生産拡大
　（イ）米、麦、ジビエ*など直川産物を活用する事業者等への支援
オ　地域資源を活用した観光産業の推進
　（ア）グリーンツーリズムの推進
　（イ）花のある里づくりの推進
　（ウ）地域活性化・交流人口の拡大のためのイベント開催
　（エ）直川憩の森公園キャンプ場、鉱泉センター直川、直川カントリー倶楽部などの観光施設を磨き上げ、新たな価値を創出
　（オ）SNS*やメディアを活用した地域の観光、文化、イベントの情報発信

■ 重点プロジェクト

①なおかわ安心プロジェクト

新たな地域コミュニティ組織の設立・運営を推進し、社会福祉法人、直川地域協力隊*やボランティア団体などと連携して、地域課題を包括的に解決する仕組みづくりに取り組みます。また、多様な農業の担い手の確保・育成等を行い、農地の多面的機能の維持や有機農業を推進し、持続可能な農村づくりを目指します。

②なおかわ活力プロジェクト

観光客や交流人口の増加による地域活性化を図るため、花のある里づくりを進めるとともに、体験型グリーンツーリズムを中心に教育旅行等の受入れを推進し、米、麦、ジビエ * などを活用した商品開発を支援します。さらに、市内他地域の観光施設と連携し、周遊型観光として集客するため、観光施設を磨き上げ、新たな価値を創出します。

■ 目標指標

目標内容	基準値（令和３年度）	目標値（令和９年度）
直川地域協力隊*の受託作業件数	45件/年	65件/年

（7）海に寄り添い海と生きる、安心快適な鶴見地域　～鶴見地域～



■ 現状と課題

鶴見地域では、少子高齢化による人口の減少、漁業の不振などによる雇用の場の減少で、生産年齢人口の地域外への流出が顕著になっており、水産業を中心に労働力確保のため外国人材の依存が高まっています。また、過疎化の著しい地区においては、地域行事などの継続も難しくなってきており、地区の存続すら危うい状況です。

また、細長いリアス海岸の半島という立地条件から、車による移動が必須ですが、依然として中心市街地までの主要道路は狭く危険な箇所が多く、道路改良など主要道路の整備が必要です。

基幹産業である水産業においては、県下最大の水揚げを誇る公設市場を擁しており、鶴見内外を問わず多くの魚介類が取引されています。しかしながら、自然環境の変化により漁獲量は年々減少しています。そのような厳しい状況の中、近年、若手漁業者など有志によるマガキ養殖が開始され、漁獲量低迷の中、明るい兆しも見えています。

観光産業においては、九州最東端の鶴御崎を中心とした歴史自然遺産などの観光資源を有していますが、コロナ禍の影響もあり、誘客数は減少しています。今後は、環境負荷の高いハード整備は行わず、地域に住む人に配慮しつつ、鶴見の景観、水産資源、魅力ある「食」などの観光資源をいかした環境にやさしい観光地づくりが求められています。

■ これからの基本方針

ア　中心市街地までの道路網整備と併せて、地域に住む人が自ら考え構築した新たなコミュニティを中心としたまちづくりを進めます。

イ　豊かな海と水産資源を大切に次世代に受け継ぐとともに、獲るだけの漁業から、時代のニーズに合わせた変革を行い、基幹産業の漁業で地元に住む人がお金を稼ぎ、生活していけるまちを目指します。

ウ　鶴見半島の歴史自然遺産をいかした観光資源の保全と、鶴見公設市場に揚がる魚介類のブランディングを確立し、景観と「食」をいかした環境負荷の少ない観光地づくりを進めます。

■ 主な取組

ア　子どもから高齢者まで、誰もが暮らしやすい新たなコミュニティの創出

（ア）コミュニティセンター*を拠点とした永続的持続可能な地域活動の支援

（イ）地域コミュニティの活性化を図るため、元気な高齢者団体の活動を支援する

（ウ）小規模校の特色をいかした、地域協働の子育て環境づくりの促進

（エ）主要幹線である県道梶寄浦佐伯線の改良や、番匠川河口橋の建設要望

（オ）消防本部東部分署を防災拠点として活用する

イ　海を生業にできるまちづくり

（ア）若手後継者育成のための就漁支援

（イ）県下最大の水揚げを誇る鶴見の魚介類のブランディングを確立し、商品価値を高める取組の支援

（ウ）鶴見の魚介類を利用した「食」や特産品開発等の支援

（エ）遊休農地を活用した漁業者の空き時間で取り組める農作物栽培や新規事業参入及び業態転換に対する取組など漁業者の所得向上を図る取組の支援

（オ）就漁外国人技能実習生*への日本語教育などの支援

（カ）海上漂流ゴミ対策など、豊かな海を守るための取組への支援

ウ　ありのままの鶴見半島を味わう観光

（ア）九州最東端の絶景を誇る鶴御崎や丹賀砲台跡等の歴史自然遺産の、ありのままの魅力を感じてもらうため、サインをユニバーサルデザイン*のものに統一。また、景観に支障のある雑木の伐採活動を支援する。

（イ）佐伯市を代表する海のイベントとして、「つるみ豊魚祭」を継続する。

■ 重点プロジェクト

①ひとにやさしいまちプロジェクト

年齢、性別、文化、身体の状況など、地域の人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、誰もが暮らしやすい新たなコミュニティを創出する。

②漁業のまちの未来創生プロジェクト

県下最大を誇る鶴見公設市場で水揚げされる魚介類のブランディングを確立し、商品価値を高める。また、特産品開発や遊休農地活用など漁業者の新規事業参入及び業態転換への支援と共に環境保全に向けた取組を行う。

③ありのまま鶴見味わいプロジェクト

あえて、ハードによる観光開発は行わず、ありのままの鶴見半島の景観、歴史、「食」を味わってもらう取組を行う。

■ 目標指標

目標内容	基準値（令和４年度）	目標値（令和９年度）
新規事業参入及び業態転換（副業等含）漁業者（事業者）数	9人（者）	15人（者）
「食」と観光の連携による誘客数	20,352人/年	31,000人/年



おさかな大百科



佐伯真牡蠣

（８）人口増へ！米水津からの情報発信　～米水津地域～



■ 現状と課題

米水津地域では、少子高齢化の進行により人口減少が続いています。この影響により地域行事の開催や伝統文化の継承が困難になってきている状況です。

産業面においても、就業者の高齢化と労働力不足が深刻なため、移住者やシニア世代の人材を活用するとともに、移住者の住居や就業先の確保等、生活基盤を整えていく必要があります。

生活基盤や産業面で重要となる「第二浦代トンネル」を含む県道改良事業は平成２９年度に着手されました。水産業等の物流の効率化に加えて、道路利用者の安全を確保し、防災においても重要な役割を果たすことから早期の完成が望まれています。また、交流人口の増加と地域の活性化につなげるため、インターネットやメディア等のあらゆる広報媒体を利用して広く米水津地域の詳細な情報を発信することが必要です。

■ これからの基本方針

ア　高齢者が地域で安心して暮らせるよう、移動手段である公共交通を確保するとともに、空き家を活用し、移住・定住希望者の住居を確保します。

イ　移住者や労働意欲旺盛なシニア世代の人材を活用し、労働力不足を解消します。移住者や外国人技能実習生*が、地域の祭りや敬老会等に参加することで、国際色あふれる地域コミュニティを形成します。

ウ　第二浦代トンネルの早期完成と県道色宮港木立線の整備及び佐伯堅田 IC につながる新規バイパス道路の整備について地域住民一体となって要望活動を行います。地域の利便性だけにとどめず、基幹産業の発展、また、観光面まで経済効果を波及させます。

エ　インターネット及びSNS*を活用し、地域のニュース、イベント、観光スポット、特産品の情報を発信し、交流人口の拡大を図るとともに、移住・定住希望者に空き家、求人情報などの情報提供を行い、移住しやすい環境を整えます。

■ 主な取組

ア　安心して暮らせる定住の場を確保
- （ア）空き家を有効活用した移住・定住希望者の居住先を確保
- （イ）コミュニティバス*（デマンドを含む）を活用した利便性のある公共交通を確保
- （ウ）子育て世代、高齢者にやさしい環境を確保
- （エ）旧色宮小学校跡地の利活用について調査・研究を推進

イ　労働力の確保
- （ア）移住者やシニア世代の人材を活用
- （イ）移住者や外国人技能実習生*を含む地域コミュニティの形成
- （ウ）移住者や外国人技能実習生*との交流会の開催
- （エ）外国人技能実習生*が活動の場を広げるための支援

ウ　第二浦代トンネルの整備要望活動の推進
- （ア）早期完成とアクセス道路交通網の整備要望活動の推進
- （イ）関連する他地域と連携した要望活動の推進
- （ウ）地域の利便性、経済、観光等多方面にわたる波及効果

エ　米水津からの情報発信
- （ア）インターネットを利用した情報発信戦略の推進

（イ）佐伯市地域おこし協力隊員を配置
（ウ）移住・定住希望者に生活環境、求人情報、空き家等の不動産情報を発信
（エ）地域の特産品を情報発信し販売網を拡大
（オ）メディア等を利用して地域の観光、文化、イベントについて情報発信

■ 重点プロジェクト

米水津人口増加プロジェクト

米水津地域の最重要課題である人口減少対策として、移住・定住希望者に空き家バンク*などの情報を発信し移住世帯数の増加を図る。

また、豊かな自然環境を生かしつつ、米水津産品を活用した食観光を推進し、交流人口の増加と地域の活性化を目指します。

■ 目標指標

目標内容	基準値（令和４年度）	目標値（令和９年度）
米水津管内移住世帯数（市外からの移住）	5 世帯 / 年	30 世帯（累計）


間越地区来だんせへ市


米水津空の展望所「空カフェ」



国際交流の会


空の地蔵尊からみた景色

（９）海の恵みを活かすまち蒲江　～蒲江地域～



■ 現状と課題

依然として続く少子高齢化により、人口減少に歯止めが掛からず、地場産業や地域活動が厳しい状態となっています。蒲江地域の活性化を図るには、豊かな自然環境の活用や、地域や産業と関わりをもつ観光プラン・ルートの造成、ソーシャルメディア*・SNS*等を活用した情報発信が今まで以上に必要です。

空き家・空き店舗が年々増加し、閑散としている場所がより多くなっています。さらに、空き家が長い間放置されている家は崩壊の可能性もあり危険です。この地域に活気を取り戻すためには、企業の誘致やワーケーション*等も絡めた移住及び定住促進などの活用策の検討が必要です。

さいきオーガニックシティ実現のために、今ある蒲江ブランドに加え、環境や住民の健康を守ること等オーガニックにつながる特産物を加えたブランド力を高める必要があります。

厳しい道路事情となっている蒲江管内の交通インフラの整備促進を目指します。

最後に、近年の異常気象による風水害や令和４年１月２２日発生の日向灘沖地震を教訓に、今後発生が予想される南海トラフ地震の対策のために、地域の自主防災会と連携し、更に防災意識を高め災害に強いまちづくりに取り組むことで、住民や地域を訪れる人々に安心を与える地域を目指します。

■ これからの基本方針

ア　自然体験型レジャー、地場産業の見学、地域（文化）資源などを絡めた新たな観光プランや観光ルートの開発に取り組みます。

イ　蒲江ブランドにオーガニックにつながるものを加え、特産品などのブランド力を高めます。

ウ　交通インフラの整備促進を図ります。

エ　蒲江の空き家・空き店舗などを、企業や個人にワーケーション*等を含めた利用をしてもらえるよう各方面に情報発信し、誘致を図っていきます。

オ　災害への事前準備や避難行動等が迅速に対応できる、強いまちづくりに取り組みます。

■ 主な取組

ア　蒲江の地域資源をいかした観光メニューの開発

（ア）マリンスポーツやトレッキングなど自然環境をいかした観光プランの確立

（イ）水産業などの地場産業を絡めた観光の企画実践

（ウ）離島（屋形島・深島）を始めとする滞在型観光の推進

（エ）花木の植栽及び保護による観光資源の開発

イ　蒲江ブランドの情報発信と定着

（ア）ソーシャルメディア*・SNS*等を十分活用した、蒲江の食材を使ったイベントの実施

（イ）関係者や関係機関と連携し、蒲江ブランドの発信と県内外でＰＲイベント、キャンペーン等を実施

（ウ）オーガニックについての研鑽・研修を重ね、蒲江ブランド力の向上につなげていく取組の実施

ウ　交通インフラの整備促進

（ア）国道388号楠本工区及び県道古江丸市尾線葛原浦丸市尾浦間バイパストンネルなどの整備に向けた取組

（イ）公共交通機関を活用した交通体制の検証・整備

エ　施設を活用した交流拠点づくり及び空き店舗活用

（ア）施設を活用したスポーツイベントやコミュニティ活動の推進
（イ）施設を活用した養殖業の研究など、あらゆる分野からの参入者の掘り起こし
（ウ）空き家・空き店舗の活用

オ　大規模災害を想定した防災・減災対策を推進
（ア）自主防災会、消防団、防災士等と連携し、地域防災力強化のための訓練を実施
（イ）住民や来訪者にわかりやすい避難路や避難地の誘導標識等を設置及び更新
（ウ）各地区の津波対策用備蓄倉庫配備品の賞味期限満了時の更新促進
（エ）避難行動要支援者支援プランに変更があった場合の自主防災会、社会福祉協議会等と協議
（オ）防災・行政ラジオの設置促進

■ 重点プロジェクト

人を呼び込む蒲江周遊観光プロジェクト

観光客の減少や産業の衰退による地域経済、人口減少を少しずつでも改善していくため、観光スポットの再発見及び磨き上げを行い、今ある蒲江ブランドにオーガニックの食観光や特産品を加え、更にブランド力を高めていきます。また、蒲江を幅広くPRできる人や観光案内できる人等の人材育成を進め、蒲江と多様な関わりやルーツ・愛着を持つ関係人口増につながるようにSNS*等の情報発信に積極的に取り組み、周遊観光を踏まえた交流人口の増加につなげていきます。

■ 目標指標

目標内容	基準値（令和３年度）	目標値（令和９年度）
蒲江独自の新たな観光推進による観光入込客数	339,016人/年	406,800人/年


蒲江背平山から屋形島・深島を臨む


かまえインターパークからの花火